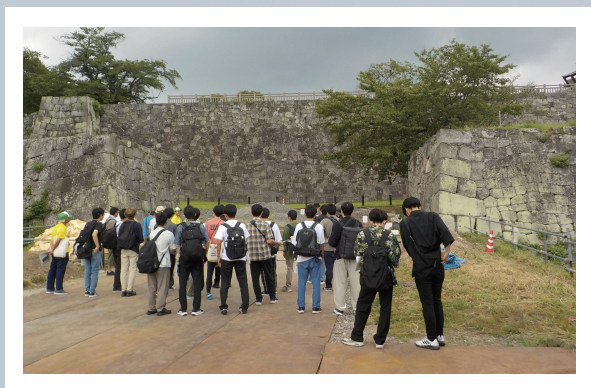




小峰城清水門復元工事 かわら版 第2号



発掘調査の現場見学会の様子

～ 発掘調査の現場公開が実施されました ～

令和6年9月8日に清水門の発掘調査の現場が公開されました。工事に先立って行われた発掘調査によって、地面に眠る江戸時代の清水門の痕跡である礎石が確認されています。今回の復元工事は、江戸時代の位置そのままに建てられるため、工事完成後は発掘調査の全貌はみることはできなくなります。その成果を知る貴重な機会となりました。

～ 礎石が物語る柱の配列 ～

江戸時代に描かれた絵図が清水門の建築形式を知る重要な資料ですが、古い絵図だけでは建物の正確な位置や寸法が絵図どおりか分かりません。発掘調査によって、当時の礎石や寸法と絵図の記載が同じことが確認されました。この礎石がまさに柱が立っていた位置や寸法が正しいことを伝える証しであり、絵図と発掘調査を突き合わせて、歴史上確かな姿で復元ができるのです。



確認された江戸時代の礎石の位置の説明表示



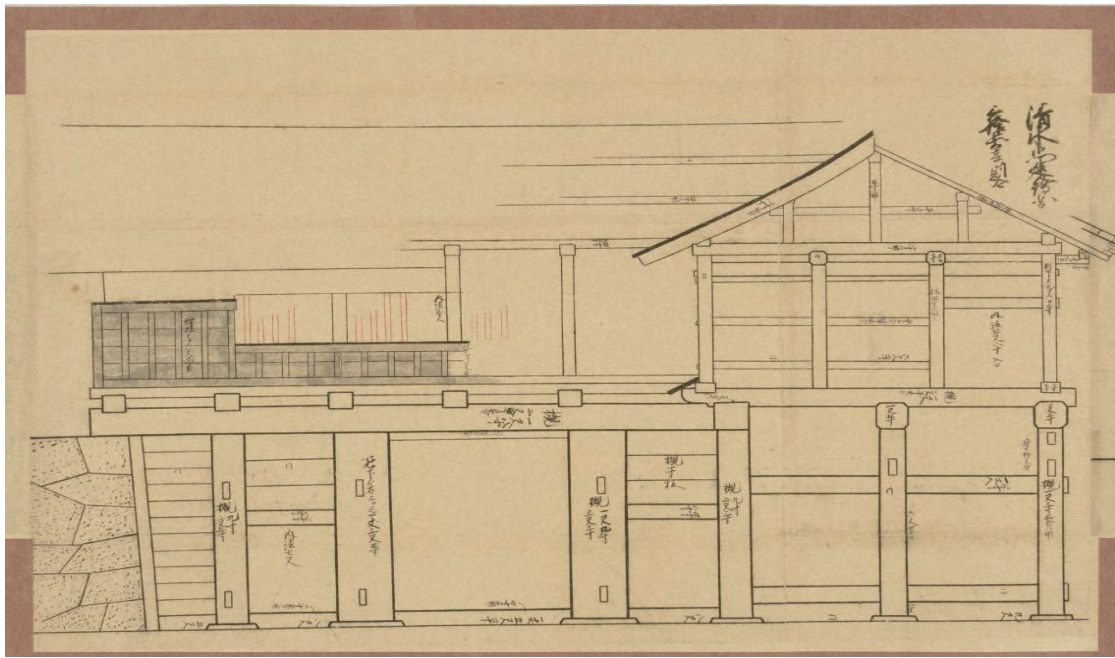
「小峰城清水門復元工事かわら版 第2号」2025年1月発行

※本紙は白河市と連携し、東北工業大学 建築史研究室が制作しています。

〔工事・工程の問合せ〕白河市建設部文化財課 史跡整備係 tel 0248-22-1111 (代) 内線 2230

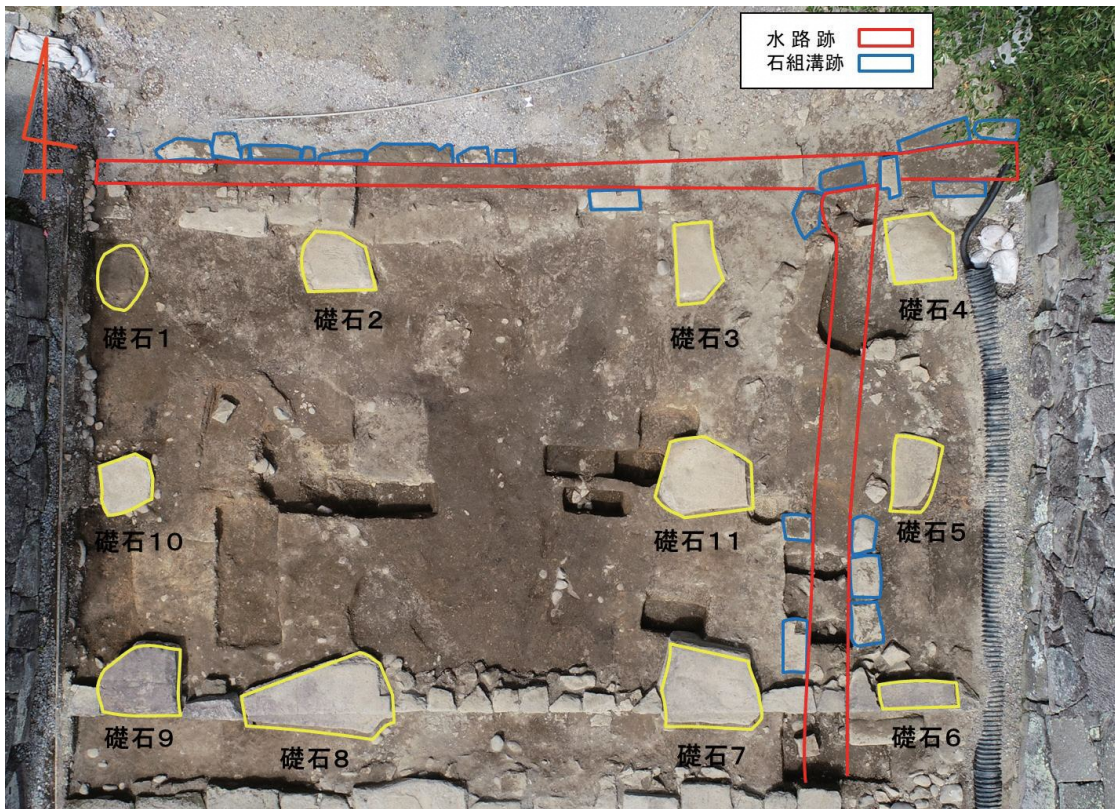
〔本紙に関する問合せ〕東北工業大学 建築学部 建築史研究室 (中村研) tel 022-305-3611

清水門は、高さが約 11m、間口は約 14m と、城内では最大規模を誇る櫓門でした。
門の復元にあたっては、江戸時代に城内の門・櫓の実測である「白河城御櫓絵図」と
発掘調査の成果に基づいて設計図を作成しました。



「白河城御櫓絵図」について

本図は 2 巻仕立てで、城内に存在した門・櫓・用屋敷などの建築物を網羅した絵図です。柱の太さや柱間の寸法などが記され、当時作成された実測図といえます。



発掘調査結果について

発掘調査では、11 基の礎石の存在が確認できました。また、排水のため構築された石組の溝も見つかっています。残っている礎石間の寸法と絵図に記された寸法は合致しています。